

子どもたちは預かり保育中にどのような遊びを行っているのだろうか?^{1,2}

—— 参加観察データに対するパーテン (1932) の遊びの分類基準を用いた分析 ——

中尾 達馬³ 中原 麻貴⁴

What kind of social play did children engage in at the *Azukari-Hoiku* (the day care service after kindergarten hours)? : An analysis of participant observational data based on Parten (1932)'s classification

Tatsuma NAKAO Maki NAKAHARA

本研究の目的は、参加観察を通して、預かり保育中における子どもの遊びの特徴を明らかにすることであった。延べ151名の預かり保育参加児について、39.5時間の観察を行い、パーテン(1932)の遊びの分類基準に基づき分析を行った結果、以下の6点が示された。すなわち、(1)5歳児は「連合遊び」を、3歳児や4歳児は「一人遊び」を最もよく行っていた。(2)この傾向は、預かり保育への参加人数が多いあるいは少ないということには左右されないが、預かり保育の前半と後半とでは、4歳児も5歳児も後半において他児と一緒に複数人で遊んでいた。(3)男児には「一人遊び」をよく行う傾向があり、女児には複数人での遊びが多い傾向があった。(4)異年齢での関わりが、観察された遊び全体に占める割合は必ずしも高くはなかった(全体の約17%)。(5)5歳児では、預かり保育への参加回数が多い子どもも少ない子どもも、「連合遊び」を最もよく行っていたが、4歳児では、参加回数が多い子どもは「一人遊び」を、参加回数が少ない子どもは「傍観的行動」や「平行遊び」をよく行っていた。(6)夏休み前と夏休み中の預かり保育を比べた場合に、子どもの遊びについては、両者の間に大きな違いはなかった。以上のことを踏まえて、議論は預かり保育の良さについて行った。

Keywords : 預かり保育, 参加観察, パーテン (1932) の分類基準, 異年齢での関わり

The purpose of this study was to reveal the features of children's social play in the *Azukari-Hoiku* (the day care service after kindergarten hours), based on participant observation. We observed 151 children for 39.5-hour and analyzed these data based on Parten (1932)'s classification. Main findings were as follows: (1) 5-year olds often engaged in the associate play. 3-year and 4-year olds displayed the solitary play more frequently. (2) These tendencies did not depend on the number of participants but influenced by the early

¹ 本研究の一部は、日本教育心理学会第51回総会(静岡大学)において発表を行いました。

² 本研究は、第一著者の指導のもと、中原麻貴さんが、2009年に山口芸術短期大学専攻科に提出した卒業論文のデータを再分析し、加筆・修正を行ったものです。また、本研究を実施するに当たりご協力くださいましたA幼稚園の園児並びに先生方、そして保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。

³ 山口芸術短期大学

⁴ 春日保育園

hour or late hour of the service (5-year and 4-year olds played with friends more in the late hours). (3)Boys engaged in the solitary play and girls played with friends more frequently. (4)The proportion of interactions in mixed group was not high (about 17%). (5) 5-year olds often engaged in the associate play regardless of the number of participation. In 4-year olds, the solitary play was observed in children with more participation, and the onlooker play and the parallel play were often showed in children with fewer participation. (6) The patterns of children's social play in the service were similar regardless of before- and in-summer vacation. With respect to these 6 results, we discussed the merits of the service.

Keywords : Day care service after kindergarten hours, participant observation, Parten (1932)'s classification, interactions in mixed-age group

問題と目的

預かり保育とは、幼稚園教育要領によれば、「地域の実態や保護者の要請により、教育課程にかかる教育時間の終了後に希望する者を対象に行う教育活動」である。預かり保育の実施園数は、平成5年では2,859園（19.4%）であったが、平成19年には9,809園（71.7%）へと大きく増加している（子どもと保育総合研究所，2009）。そして、今までに行われた預かり保育についての研究は、以下の6つに分類できる。

1. 保護者が預かり保育を利用するのはなぜか

保護者が預かり保育を利用する理由としては、概して、「一時的な用事のため」（授業参観，美容院）、「仕事のため」，「友人との交流や趣味など自分の時間をつくるため」という保護者側の理由だけでなく、「子どもが友達と交流する場を作るため」という子ども側の理由も多くあげられていた（荒牧・安藤・岩藤・金丸・丹羽・立石他，2004；荒牧・安藤・岩藤・丹羽・立石・砂上他，2006）。また，専業主婦とパートタイムで働く母親を比較した場合には，専業主婦では，預かり保育を利用する理由としては、「一般的な用事」（PTA，授業参観など）が最も多く，パートタイムで働く母親では、「仕事」という回答が多かった（荒牧・安藤・岩藤・丹羽・堀越・無藤，2007）。

2. 保育者が預かり保育時に行っている配慮および環境設定

保育者が預かり保育実施時に配慮している点としては，子どもの安全面や健康面があげられていた。また，子どもがリラックスして自由に活動できるように，家庭的雰囲気を作りあげているようである（山本・神田，1999）。

場所や設備という環境設定の側面については，室内の空間や大きな運動場所，運動設備は一般的な基準値を満たしており，はじまりとおわりの挨拶などの保育ルーチンも整っていた（園田・

無藤, 2001)。そして, 預かり保育のために揃えたものは「特にない」という園が62.3%で, 揃えたものがあると回答した園は, 「おもちゃ」, 「絵本」, 「電気製品」などをあげていた(山本・神田, 1999)。

3. 保育者の預かり保育に対する見解

保育者は, 預かり保育が保護者だけでなく子どもにとっても有効であると感じており, 預かり保育について, 「子どもが活動を楽しめる」, 「保護者が家事や自分のことなどに取り組む時間に余裕ができる」, 「保護者のイライラする様子が減る」と回答していた。さらに保育者は, 「保護者の都合を優先して子どもがかわいそうな気がする」とはあまり感じていなかった(丹羽・安藤・岩藤・立石・荒牧・砂上他, 2006; 立石・安藤・岩藤・丹羽・金丸・荒牧他, 2004)。なお, 幼稚園側が懸念しがちな日常的な子育ての辛さから逃れる目的で預かり保育を利用しようと考えている母親(預かり保育を毎日利用・希望しかつ自分の時間が欲しいと考えている母親)は, かなり少数である可能性が高かった(園田・無藤, 2005)。

4. 預かり保育中の子どもの様子

園田・無藤(2001)は, 保育者に, 預かり保育中の子どもの様子(ポジティブな面とネガティブな面)について回答するよう求めた。その結果, 保育者は, 「嫌がる」, 「落ち着かず不安げである」, 「保育者に抱かれたがる」などのネガティブな面をあまり回答しておらず, 逆に「楽しみにしている」, 「元気に園内を動き回る」, 「子ども同士でよく遊ぶ」などのポジティブな面を多くあげていた。また, 利用頻度との関連については, 預かり保育に慣れるためか, たまに利用する子どもよりも, 時々あるいは頻繁に利用する子どもの方が「楽しみにしている」と答えていた。

清水・菊野・大橋(2003)は, 5歳児1名, 3歳児1名にマイクと録音機を付けてもらい, 預かり保育中と通常保育中における発話量を比較した。その結果, 「子どもとのやりとり」では, 5歳児も3歳児も, 通常保育より預かり保育の方がやりとりの数が多かった。さらに, 発話の豊富さを検討するために発話の音節数について検討を行った結果, 5歳児も3歳児も, 預かり保育中の方が通常保育中に比べて音節数が多いこと(預かり保育中の方が子どもの発話は豊富であること)が示された。

5. 預かり保育後の子どもの様子(教育効果, 子どもの負担)

預かり保育後の子どもの様子については, 清水・平化・中村(2002)では, 「よく眠る」, 「夕食をよく食べる」などが, そして山本・神田(1999)でも「預かり保育を楽しんできた」, 「子どもの発達や成長にプラスである」といったようなポジティブな様子があげられていた。同様に, 園田・無藤(2001)でも, 「預かり保育での活動を楽しんできた」, 「子どもの成長や発達にプラスである」, 「子どもに新しい友達ができた」において「とてもあてはまる」, 「ややあてはまる」と回答した養育者は, 全体の約70~90%もいた。そして, 「いらいらやかんしゃくを起こす」の項目では, 「全くあてはまらない」, 「あまりあてはまらない」と答えた養育者が80%近くいた。

また, 清水他(2002)は, 預かり保育後の子どもの様子を教育効果と子どもの負担という2つ

の視点から検討した。教育効果については、年長児は、年少・年中児に比べて、「(預かり保育のことではなく)通常保育のことをよく話す」、「母親に甘えたがる」という項目の得点が有意に低かった。そして、利用回数が多い群は、少ない群に比べて、「なかよしクラス(預かり保育のクラス)の遊びをしたがる」という項目の得点が有意に高かった。これらのことから、彼らは、年長児および利用回数の多い子どもに対しての方が、預かり保育は、教育活動として効果があると解釈している。さらに、子どもの負担については、「よく眠る」、「夕食をよく食べる」などの帰宅後の子どもの様子から、預かり保育が子どもに充実感を与えていると考察している。同様のことは、園田・無藤(2001)でも示されており、利用回数が多い群の保護者は、少ない群の保護者に比べて、「子どもの成長や発達にプラスである」、「子どもに新しい友達ができた」、「家庭関係が安定した」とより感じていた。

6. 預かり保育によって保護者の育児不安・負担は減少するのか

「預かり保育を利用したことがある母親」、「利用しようと思ったことはあるが、まだ利用していない母親」、「利用しようと思ったことがない母親」という3つの群における育児不安の高低を比較した場合には、相対的に、「利用しようと思ったことがない母親」は、他の2群の母親よりも育児不安が高かった(荒牧他, 2004)。さらに、荒牧他(2007)は、専業主婦とパートタイムで働く母親のそれぞれについて、先の3群における育児への負担感を検討した。その結果、パートタイムで働く母親については、これら3群における育児への負担感に有意差はなかったが、専業主婦では、「利用しようと思ったことがない母親」は、他の2群よりも育児への負担感が有意に高かった。

では、育児不安や育児への負担感を強く感じている母親は、預かり保育を利用した後でどのような感想を抱くのだろうか。育児への負担感を強く感じている母親は、預かり保育が子どもへ与える影響についてはあまり肯定的な評価を行っていないが、自分自身の「イライラが減少する」と感じていた⁵。さらに、抑うつ的な母親および育児不安が高い母親は、預かり保育を利用すると、自身のイライラは解消されるが、その一方で、子どもがかわいそうな気がすると感じていた。つまり、これらの母親は、アンビヴァレントな感情を抱きつつ、預かり保育を利用していた(安藤・荒牧・岩藤・丹羽・砂上・掘越, 2008)。

以上のように、今までに行われた先行研究では、保護者、保育者、子どもの大きく3つの視点から預かり保育の諸相について検討が行われていた。ところが、「4. 預かり保育中の子どもの様子」については、園田・無藤(2001)や清水他(2003)では、「動き回る」「元気に遊ぶ」といった漠然とした子どもの様子や非常に少数の子どもの発話数という形式的な側面しか検討しておらず、具体的な遊びの内容までは詳しく検討されていなかった。そのため、子どもが誰とどのような遊びをしているのか、預かり保育参加人数の多い日と少ない日とでは子どもの遊びが異なるの

⁵ ただし、専業主婦については、荒牧他(2007)の専業主婦とパートタイマーで働く主婦についての預かり保育を利用する理由の分析を踏まえるならば、専業主婦でかつ育児への負担感が高い人が預かり保育を利用する理由は、あくまで「一時的な理由」(e.g., 授業参観)であるため、もしかしたら育児への負担感が根本的には解決されていないという可能性が残されている(安藤他, 2008)。

か、といった預かり保育時の子どもの様子の具体像が不明瞭なままである。この点を明らかにしなければ、預かり保育の長所と短所（あるいは是非）や通常保育と預かり保育の共通点や違いについて議論を行うための共通の土台が定まらず、議論が実り多いものとならないであろう。

そこで本研究の目的は、参加観察を通して、預かり保育中の子どもの遊びの諸特徴（実態）を明らかにすることであった。具体的には、預かり保育中に子どもが行っている遊びを参加観察し、そこで得られた観察データをパートンの遊びの分類基準（Parten, 1932, Table 1）に基づき分類し、以下の変数において違いが生じるかどうかを検討した⁶。

1. 夏休み前（通常保育終了後）の預かり保育について
 - 1-1. 預かり保育参加児の遊びの全体的特徴（年齢差、性差、異年齢との関わり）
 - 1-2. 参加人数が多い日と少ない日
 - 1-3. 預かり保育の前半と後半
 - 1-4. 参加回数（参加回数が多い子どもと少ない子どもの比較）
2. 夏休み中の預かり保育について（夏休み前の預かり保育との比較）

Table 1 本研究で用いる子どもの遊びの分類基準¹⁾

分類カテゴリー	定義
1. ぼんやりしている	・興味をひくようなものがなければ、自分から進んで働きかけようとしなない。
2. 傍観的行動	・他児の遊ぶものに関心をもって見たりするが参加はしない。時おり他の子どもに話しかけることもある。
3. 一人遊び	・一人で遊んでいて、そばに他の子どもがいても無関係である。自分の遊びに熱中している。
4. 平行遊び	・他の子どもと同じような行動をしているが、それぞれ独立して遊んでいる。
5. 連合遊び	・他の子どもと一緒に遊び、お互いに交渉も見られるが、遊び全体は組織化されていない。
6. 協同遊び	・組織されたグループの一員としてその役割を受けもち、互いに協力しながら遊ぶ。リーダーがいて遊びを統制している。
7. ビデオ視聴	・A園では、子どもの要望により降園前に、希望する子どもはビデオ視聴を行っている。
8. その他	・上記の①から⑦に当てはまらないもの

¹⁾ 1 から 6 は、パートンの遊びの分類基準（Parten, 1932）である（吉田・前田, 2004 より抜粋）。また、7 と 8 については、本研究で新たに作成した。

A 園における預かり保育の概要

それぞれの園によって預かり保育の実施形態や参加児数は多種多様である（山本・神田, 1999）。そこで本研究では、1 事例（私立 A 幼稚園、以下 A 園とする）に対して、集中的な参加観察を行うことにした。A 園の園児数は 96 名（年少 30 名、年中 34 名、年長 32 名）であり、職員数は 6 名であった。A 園資料によれば、2008 年 4 月～6 月における預かり保育参加児数は、1 日平均 8.8 人であった（Table 2）。園田・無藤（2001）と同様に、年齢が上がるにつれて、また、4 月～6 月という時間の経過に伴い、預かり保育参加児数は増加していた。そして、主任保育者によれば、通常保育後および夏休みにおける預かり保育は、Figure 1 と Figure 2 に示す流れで行われているとのことであった。

⁶ 本研究では、預かり保育についてより総合的な理解を得るために、探索的に、「保育者が預かり保育時に行っている配慮」や「参加回数が多い子どもが預かり保育に対して感じていること」についても検討を行った（詳細は、付録 A の研究ノート 1, 2 を参照のこと）。

方 法

Table 2 A園の2008年4月～6月の間における預かり保育参加児の延べ人数

	5歳児		4歳児		3歳児		合計
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	
4月	16	39	13	24	0	9	101
5月	32	78	20	33	4	9	176
6月	38	77	16	48	4	13	196
合計	86	194	49	105	8	31	473
1日平均	1.6	3.6	0.9	1.9	0.1	0.6	8.8

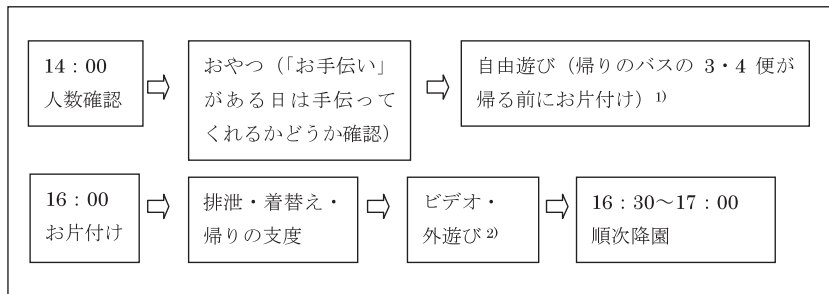


Figure 1 A園の夏休み前（通常保育後）の預かり保育の流れ

¹⁾ 3便・4便とは、帰りのバスの3番目（15:00分発）、4番目（15:30分発）のことである。

²⁾ 以前は全員ビデオ視聴のみであったが、外で遊びたい子どももいたため、ビデオを見たい子どもはビデオを見て、外で遊びたい子どもは、おもちゃを出さず固定遊具であそぶことにしたそうである（保育者の柔軟な対応が伺える）。また、ビデオの内容は、世界名作シリーズや絵本がビデオになったものなどである。

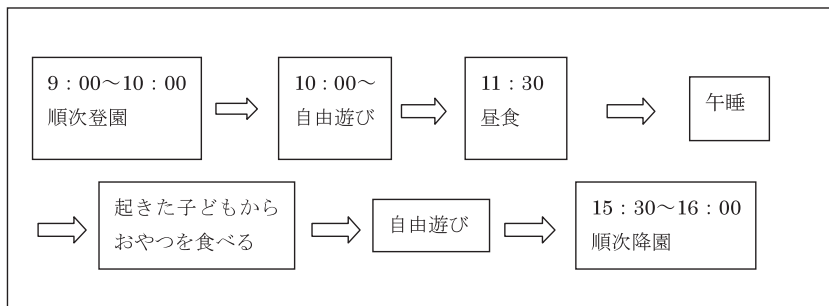


Figure 2 A園の夏休み中の預かり保育の流れ

調査対象 調査対象は、私立A幼稚園預かり保育参加児延べ151名（一日平均10.1人、5歳児：男児21名、女児63名、4歳児：男児10名、女児42名、3歳児：男児7名、女児8名）であった（内訳は、Table 3）。

調査期間 夏休み前と夏休み中の2つの時期に参加観察を実施した。

夏休み前：2008年6月10日から7月11日の間の火曜日（15:30～17:00）、木曜日（14:00～17:00）、金曜日（15:30～17:00）に、計25.5時間（火曜日：1.5時間×5回＝7.5時間、木曜日：3時間×4回＝12時間、金曜日：1.5時間×4回＝6時間）の観察を行った。

夏休み中：2008年7月23日（水）と7月24日（木）に、1日あたり7時間（9:00～16:00）の観察を行った（計14時間）。

参加観察の手続きおよび観察記録のコード化 保育士資格を有する第二著者が、手の平サイズのメモ帳を用いて、子どもが遊んでいる各室内や外の様子を移動しながら第三者として参加観察した（ビデオカメラも補助的に使用）。すなわち、子ども側からの関わりがない限りは、基本的に、観察者側からは主体的に子どもと関わろうとはせず、子どもたちの自然な遊びの様子を見守りながら、参加観察を行った。

また、第二著者は、預かり保育中においては、5W1Hを踏まえて、30分ごとに、どこで、誰が（あるいは、誰と誰が）、どのような遊びを行っていたのか（生起頻度）について観察・記録を行った（単位時間内 [30分以内] に、遊びの内容が異ならずかつ同じメンバーで遊んでいる場合には、一度のみカウント）。そして、帰宅後その日の内に、あるいは、少なくとも次の日に、この観察記録を、30分単位で、(1) 子どもの名前と年齢、(2) 一言で言うと、どのような遊びをしているのか（e.g., 砂遊び、かくれんぼ）、(3) そのときの具体的な子どもの様子（遊びの内容についてのエピソードをできるだけ詳細に記述）、(4) パーテンの遊びの分類基準（Table 1）に照らし合わせると何遊びになるのかの4点についてコード化・整理した。

(4) については、第二著者が一人で判断することが難しい場合には、第一著者と協議の上で、分類を行った。そして、その後、第一著者が再度全ての観察記録を確認して、再コード化を行った（e.g., 箱形ブランコにおいて、複数人で、一人が乗り手、他の子どもが押し手となる場合は連合遊びから協同遊びへとコードを変更した。なお、追いかっこについては、連合遊びか協同遊びかの判断が難しいが、これについては参加観察者である第二著者のコードを採用した）。2つのコード間における一致率は、夏休み前 = 93.43%、夏休み後 = 95.69%であった（本研究では、再コード化したデータについて分析を行った）。

Table 3 調査対象の内訳¹⁾

		5歳児		4歳児		3歳児		合計
		男児	女児	男児	女児	男児	女児	
夏休み前	6/10~7/11	20	61	9	38	3	8	139
	一日平均	1.5	4.7	0.7	2.9	0.2	0.6	10.7
	range	0-5	3-9	0-3	2-6	0-2	0-2	7-24
夏休み中	7月23日	0	2	1	2	3	0	8
	7月24日	1	0	0	2	1	0	4
	一日平均	0.5	1	0.5	2	2	0	6

¹⁾ 夏休み前の観察は、6月10日から実施したため、Table 2とTable 3には重複がある。

結果と考察⁷

1. 夏休み前（通常保育修了後）の預かり保育

計 25.5 時間の観察において、計 411 の遊びを観察することができた（男児のみ = 51 [12.4%], 女児のみ = 278 [67.6%], 男女混合 = 81 [20.0%]）。また、パーテンの遊びの分類基準を用いて分類した遊びの具体的内容については、Table 4 に示した。この内、異年齢での関わりは計 67（一日平均 5.2 回、全体の 16.3%）であった。そのため、預かり保育中の自然発生的な遊びにおいては、異年齢での関わりが多いとは必ずしもいえないのかもしれない。なお、大人との関わりは、計 11（観察者と = 2、保育者と = 5、実習生と = 3、友達のお母さんと = 1）であった。

Table 4 夏休み前の預かり保育中に観察された遊びの具体例

分類カテゴリー	遊びの具体的内容
1. ぼんやりしている	●何をするでもなくぼんやりしていた。
2. 傍観的行動	●友達の様子を「面白そうだ」という様子で見ている。
3. 一人遊び	●5 歳男児が積み木で遊んでいた。その男児は、重ねた積み木の上に昆虫の絵本を立てて見ている。絵本を見ていると思ったのだが、立っているだけで本当は積み木の上でポケモンの絵を描いていた。この男児は遊びの中に 3 つの遊びを取り入れていた（積み木、絵本、お絵かき）。その他、遊具（e.g., ブランコ）、砂遊び、ままごと等での遊びが見られた。そして、集団での遊びから一時抜け、別の遊具で遊ぶなど自分の遊びをする子どもがいた。
4. 平行遊び	●2 名の 5 歳児がカップに砂を入れて固めていた。それを見て 1 名の 4 歳児が真似をして同じようにカップに砂を入れ、固めて遊びはじめた。それから、5 歳児 2 名がジャングルジムに登って遊んでいると、1 人で遊んでいた 3 歳児が同じようにジャングルジムで遊びはじめた。その 5 歳児と 3 歳児は姉妹であったが、一緒に遊ぶことはなかった。その他に、遊具やブロック等での遊びが見られ、1 人だけでなく、3～5 人の集団の中での平行遊びも見られた。
5. 連合遊び	●預かり保育に参加した子どものほぼ全員が集まって泡遊びを行う姿が見られた。5 歳児がカップに水とティッシュと石鹸を入れて溶かし、ストローで息を吹き込み、泡を作っていた。この時、年長児が年下の子どもにやり方を教えてあげたり、「もっと大きいカップでやった方がいいよ」とアドバイスをしてあげたりしていた。その他、積み木、砂遊びや遊具等での遊びが見られた。
6. 協同遊び	●5 歳児 3 名が、自分たちでグラウンドに足で円のラインを引き、リレーを行っていた。3 名は保育者にリレー用のバトンを借りて行っていた。2 人ずつ走っていたが、3 人だったためバトンのパスをうまくつなげることができなかった。その他、鬼ごっこやかくれんぼ、ままごと、ボーリング、箱形ブランコ等でも協同遊びは行われていた。
7. ビデオ視聴	●降園前に、子どもの要望に応じてビデオが流されていた。
8. その他	●特に遊びをするということもなく、実習生の所で話をしていた。

1-1. 全体的特徴（年齢差、性差）

年齢差については、5 歳児は「連合遊び」を、4 歳児は「一人遊び」を、3 歳児は「一人遊び」や「傍観的行動」を多く行っていた（Figure 3, 付録 Table A）。したがって、一人で遊ぶのか、複数人で遊ぶのかということについては、3 歳児や 4 歳児は一人で遊ぶが、5 歳児は複数人で遊んでいるといえよう⁸。また、観察された一人あたりの遊びの数は 4 歳児が多い傾向にあった（5

⁷ 観察された遊びの各変数（e.g., 年齢、性別）における%については本文中に、生起頻度については付録 B に示した。

⁸ 火曜日・木曜日・金曜日のそれぞれについても分析・比較を行ったが、基本的に大きな違いが得られなかった。そのため、以下においても、曜日ごとの比較は割愛した。

歳児 = 2.4, 4 歳児 = 2.9, 3 歳児 = 1.0)。このことは、4 歳児の一人遊びは長続きしないためかもしれない。

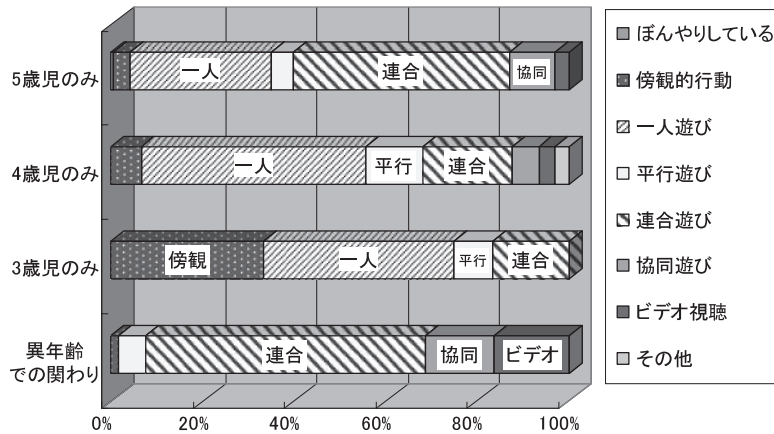


Figure 3 夏休み前の預かり保育の子どもの遊びにおける年齢差 (%)

伊藤（2006）では、通常保育時の自由遊びの時間において、5 歳児は「連合遊び」、「平行遊び」、「協同遊び」、「一人遊び」、「傍観的行動」という順で遊びを行っていた。本研究の結果（Figure 3）は、伊藤（2006）の結果と比べて、「平行遊び」、「協同遊び」よりも「一人遊び」の方が多いという点において矛盾している。だが、このことは、通常保育と預かり保育の違いが影響をしているためであろう。すなわち、通常保育時の自由遊びでは、その場にいる人数が多いため、自然と平行して遊ぶ姿や複数での遊びが増える。一方、預かり保育は人数が少ないため、一人遊びをしている人のところに誰かが行き、遊びが展開する。そのため、預かり保育中は、一人遊びが通常保育時に比べて多いと考えられる。

次に、預かり保育中の遊びを男女別に比較した（Figure 4, 付録 Table B）。その結果、男児は一人遊びが多く、女児は二人以上の遊び（連合遊び、協同遊び）が多い傾向にあった。また、さらに詳細に、年齢×性差の検討を行ったところ（Figure 5, 付録 Table C）、4 歳児男児で一人遊びが最も多く、5 歳女児で複数人の遊び（連合遊び+協同遊び）が多い傾向にあった。そして、異年齢でかつ男女で遊ぶ場合には、ビデオ視聴が最も多いが、見方を変えると、環境設定によって異年齢での関わりが増えているともいえよう。

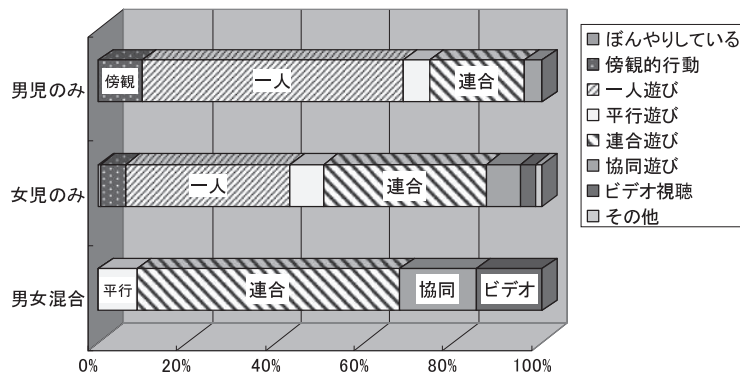


Figure 4 夏休み前の預かり保育の子どもの遊びにおける性差 (%)

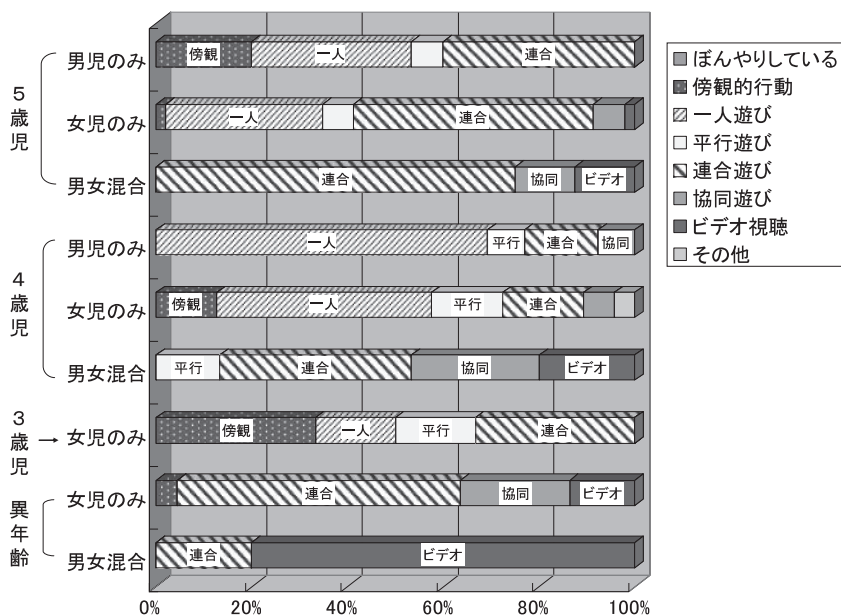


Figure 5 夏休み前の預かり保育における子どもの遊び (年齢×男女, %)

1-2. 参加人数が多い日と少ない日

観察時間が比較的長い木曜日について、参加人数が多い日（6月19日、24名）と少ない日（6月12日、7名）における4歳児と5歳児の同年齢同士の遊びを比較した⁹ (Figure 6, 付録 Table D)。その結果、参加人数が多い日も少ない日も、4歳児は個々人で遊ぶが（一人遊び+平行遊び）、5歳児は他児と一緒に遊ぶこと（連合遊び+協同遊び）が示唆された。また、異年齢での関わりは、参加人数が少ない日の方が多かった（多い日=4, 少ない日=6）。そして、観察された一人あたりの遊びの頻度については、参加人数が多い日は3.3, 少ない日は1.9であった。このことは、その場にいる人数が少ないと、一つのおもちゃや遊具を使ってゆっくりと自分のペースで遊ぶことが可能だからかもしれない。

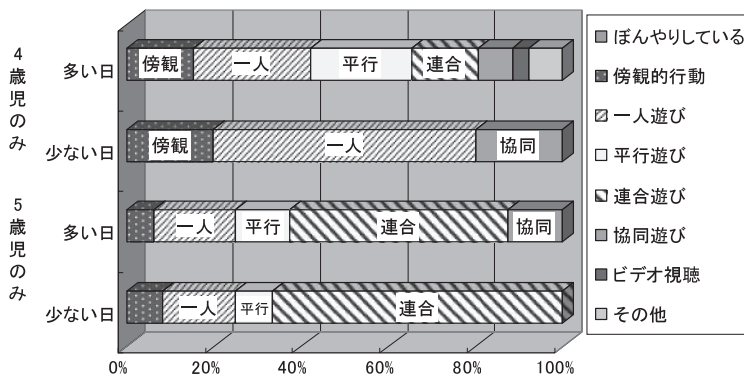


Figure 6 夏休み前の預かり保育における参加人数が多い日と少ない日の4歳児と5歳児の遊び (%)
 (少ない日: 6月12日, 4歳児2名, 5歳児5名, 多い日: 6月19日, 4歳児9名, 5歳児14名, 3歳児1名 [割愛])

⁹ 3歳児については、参加人数が少ない日は0名, 多い日は1名(女児)であった。後者の参加人数が多い日においては、5歳児女児がこの3歳児女児と常に一緒に遊んでいた(お世話をしてくれていた)。

1-3. 預かり保育の前半と後半

先程と同様に、木曜日（計4日）について、預かり保育の前半と後半の時間帯における4歳児と5歳児の遊びを比較した（Figure 7, 付録 Table E）。その結果、後半になると、4歳児も5歳児も他児と一緒に遊ぶようになる（連合遊び+協同遊び）という傾向が示唆された。また、異年齢での関わりは、前半よりも後半の方が多かったが（前半=8, 後半=13）、このことは、その場にいる人数が減少するため、みんなで一カ所に集まって一緒に遊ぶためであろう。

参加人数が多い日と少ない日（Figure 6）と預かり保育の前半と後半（Figure 7）を比較すると、複数人での遊びは、参加人数が多い日と少ない日では変化がないのに対して、同様に人数が少ない預かり保育後半ではこれが増加している。このことは、一見すると矛盾しているように見えるが、これは参加人数が多い日と少ない日では人数が固定されているが、預かり保育の前半と後半ではその場にいる人数に変化が生じるためであろう。つまり、その場にいる人数が少なくなると、参加している子どもたちは、みんなで一緒に遊ぶために、複数人での遊びの増減に違いが生じていると解釈することができよう。

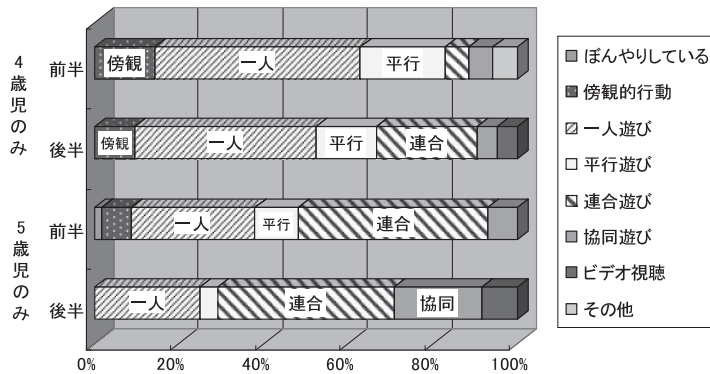


Figure 7 夏休み前の預かり保育の前半と後半における4歳児と5歳児の遊び（%）
（木曜日計4日，調査対象者=4歳児15名，5歳児32名）

1-4. 参加回数が多い子どもと少ない子どもの比較

参加回数が多い子ども4名（観察期間に9回以上参加）と参加回数が少ない子ども4名（観察期間中に1回参加）について、預かり保育における遊びを比較した（Figure 8, 付録 Table F）。その結果、5歳児では、参加回数が多い子どもも少ない子どもも、同様に、連合遊びを最もよく行っていた。だが、4歳児では、2番目に頻度が多い遊びについては、参加回数が多い子どもは「一人遊び」が多く、参加回数が少ない子どもは「傍観的行動」や「平行遊び」が多かった（Figure 8）。このことは、参加回数が少ない場合には、その場に慣れていないために、すぐにみんなの中に入って遊ばずに、まず、みんなが行っている遊びの様子を見たりあるいは真似したりするためであろう（この傾向は、5歳児ではなく、4歳児でのみ見られるのかもしれない）。

異年齢との関わりは、参加回数が少ない子どもでは計1回しか観察できなかったが、参加回数が多い子どもでは一日平均2.2回観察できた（付録 Table F）。したがって、預かり保育に参加する回数が多いほど、異年齢での関わりも増えるといえよう。

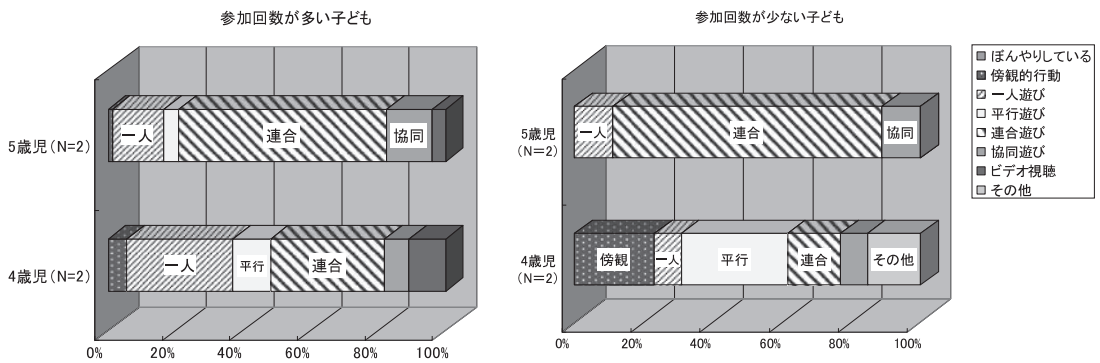


Figure 8 夏休み前の預かり保育における参加回数が多い子どもと少ない子どもの遊びの比較 (%)

なお、第二著者が、参加観察中に、参加回数が多い子ども4名に対して、「(預かり保育において)嫌なことはあるの?」という質問を行ったが(付録Aの研究ノート2)、3人全員が、すぐに「ない」と回答していた。したがって、子どもの視点からは、参加回数が多いからといって、預かり保育に対して、特に大きな不満は抱いていないようであった。

2. 夏休み中の預かり保育

計14時間の観察において、計116の遊びを観察することができた(男児のみ=49[42.2%], 女児のみ=44[37.9%], 男女混合=23[19.8%])。参加人数に占める男児の割合が夏休み前に比べると増加したため、男児のみの遊びの頻度も増加していたが、男女での遊びの割合は、夏休み前も夏休み中の預かり保育もほぼ同じ割合であった。

また、異年齢での関わりは、計21(一日平均10.5回)であった。夏休み前の預かり保育に比べると、一日平均の生起頻度は増加していたが、パーセンテージに変換した場合には、全体の18.1%とほぼ同じであった。夏休み中の預かり保育における大人との関わりは、保育者の関わりが増加していたため、一日平均5回(計10:3歳児と保育者=3, 4歳児・3歳児と保育者=1, 4歳児と保育者=4, 5歳児・3歳児と保育者=1, 5歳児・4歳児と保育者=1)と増加していた。

年齢差について検討を行ったところ、夏休み前の預かり保育と同様に、夏休み中の預かり保育においても、5歳児は「連合遊び」を、4歳児や3歳児は「一人遊び」を最も多く行っていた(Figure 9, 付録Table G)。

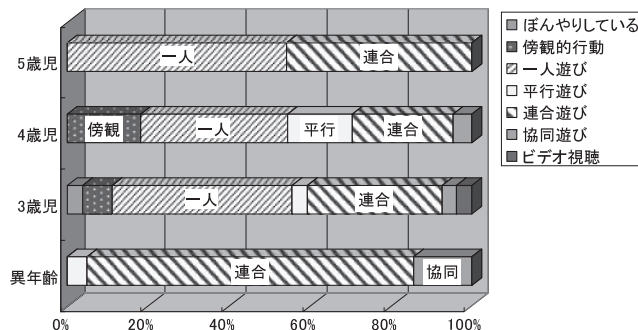


Figure 9 夏休み中の預かり保育の子どもの遊びにおける年齢差 (%)

なお、夏休み前に比べて、夏休み中の預かり保育において、5歳児の一人遊びが増加しているのは、夏休み中の方が、5歳児の参加人数が少なかったためであろう。さらに、年齢差以外にも、性差や午前中と午後の比較を行ったが、夏休み前の預かり保育と大きな違いは見られなかった。したがって、夏休み前と夏休み中の預かり保育における子どもの遊びは、(保育者の関わりが増加するという変化はあるものの)基本的には大きな違いはないと考えられる。

総括 以上の結果を整理すると、次のようになる。すなわち、(1) 預かり保育中に、5歳児は「連合遊び」を、4歳児や3歳児は「一人遊び」を最も多く行っていた。言い換えると、3歳児や4歳児は、預かり保育中に一人で遊ぶことが多いが、5歳児は、複数人で遊んでいるといえよう。また、(2) この傾向は、預かり保育への参加人数が多いあるいは少ないということには左右されないが、預かり保育の前半と後半を比較した場合には、その場にいる人数が徐々に減少する後半では、4歳児も5歳児も他児と一緒に遊ぶようになる傾向があった。そして、(3) 性差については、男児には「一人遊び」をよく行う傾向があり、女児には複数人での遊びが多い傾向があった。さらに、(4) 異年齢での関わりは、通常保育に比べると増加していたかもしれないが、預かり保育中の遊び全体に占める割合は必ずしも高くはなかった(全体の約17%)。そして、異年齢での関わりは、その場にいる人数が少ない方が(参加人数が少ない日、預かり保育後半)、多い場合に比べて増加していた。(5) 参加回数が多い子どもと少ない子どもを比較した場合には、5歳児では、参加回数が多い子どもも少ない子どもも、「連合遊び」を最もよく行っていた。だが、4歳児では、参加回数が多い子どもは「一人遊び」を、参加回数が少ない子どもは「傍観的行動」や「平行遊び」をよく行う傾向があった。そして、参加回数が多い子どもの方が、少ない子どもに比べて、異年齢での関わりが多かった。(6) 夏休み前と夏休み中の預かり保育については、保育者との関わりが増減に違いはあるものの、基本的に、子どもの遊びの様子については大きな違いはなかった。

参加観察中に一番頻度が多かった「連合遊び」では、通常保育でよく見られる砂遊びや遊具、玩具を使った遊びだけでなく、子ども独自の遊びを行う姿も観察することができた。たとえば、カップに石鹸とティッシュを混ぜる子ども、さらに、ストローで息を吹き込み、楽しんで泡遊びをする子どもである。この遊びの中で、5歳児はティッシュを水に浸すことで、溶けること、ティッシュに印刷されている絵が薄くなることを発見していた。A園の預かり保育においては、活動に規制がなく自由にのびのびと遊ぶことができるので、子どもは独自の遊びを見つけ、また、その遊びの中で何かを発見をし、それを友達と共有して楽しんでいるようであった。

異年齢での関わりについては、生起頻度こそ少なかったが、5歳児が3歳児のお世話をしている姿も観察することもできた。たとえば、脚注9でも述べたが、預かり保育参加人数が多く、3歳児の参加は1名の日のことであった。保育者がその子のことを気にかけて、預かり保育が始まる前に、「一緒に遊んであげるように」と全員に声をかけていた。そのことによって、5歳児と3歳児と一緒に廃材でマラカスを作ったり、絵を描いたりして遊んでいた。また、5歳児が3歳児の教室から、お絵かき帳を持ってきてあげる姿もあった。このエピソードからは、年上の子どもが年下の子どものお世話をする様子だけでなく、それを見守り陰から支える保育者の配慮もまた読み取ることができよう。

本研究で得られた結果は、園田・無藤（2001）が言及している「元気に園内を動き回る」、「子ども同士でよく遊ぶ」という様子と一致している。また、通常保育と比較した場合には、基本的に、子どもたちの遊ぶ様子に大きな違いはないが、預かり保育においては、（全体的な割合は低いものの）異年齢での関わりが増加すること、子どもたち同士でゆっくりと独自の遊びを見つけ、その中で何かを発見し友達とそれを分かち合うことができる可能性が高いという良さをあげることができるであろう。言い換えると、預かり保育は時間外の保育であるため、活動を規制せず、自由に活動できる時間として提供することに預かり保育の良さがあるのではないだろうか。

引用文献

- 安藤智子・荒牧美佐子・岩藤裕美・丹羽さかの・砂上史子・堀越紀香（2008）. 幼稚園児の母親の育児感情と抑うつ——子育て支援利用との関係—— 保育学研究, **46**, 235-244.
- 荒牧美佐子・安藤智子・岩藤裕美・金丸智美・丹羽さかの・立石陽子・砂上史子・堀越紀香・無藤 隆（2004）. 幼稚園における子育て支援の利用状況 ——育児不安との関連から—— お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要, **2**, 17-26.
- 荒牧美佐子・安藤智子・岩藤裕美・丹羽さかの・堀越紀香・無藤 隆（2007）. 幼稚園における預かり保育の利用者の特徴——育児への負担感との関連を視野に入れて—— 保育学研究, **45**, 157-165.
- 荒牧美佐子・安藤智子・岩藤裕美・丹羽さかの・立石陽子・砂上史子・堀越紀香・無藤 隆（2006）. 幼稚園における子育て支援の利用状況（第2報） お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要, **3**, 9-16.
- 伊藤順子（2006）. 幼児の向社会性についての認知と向社会的行動との関連——遊び場面の観察を通して—— 発達心理学研究, **17**, 241-251.
- 子どもと保育総合研究所（2009）. 最新保育資料集 2009 ミネルヴァ書房.
- 丹羽さかの・安藤智子・岩藤裕美・立石陽子・荒牧美佐子・砂上史子・堀越紀香・無藤 隆（2006）. 幼稚園における子育て支援の実態調査(2)（2005年調査） お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要, **3**, 17-29.
- Parten, M. B. (1932). Social participation among pre-school children. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, **27**, 243-269.
- 清水益治・菊野春雄・大橋岑吉（2003）. 預かり保育に関する研究（3）——通常保育と預かり保育中の子どもの発話—— 大阪樟蔭女子大学人間学科研究紀要, **2**, 121-127.
- 清水益治・平化恵美子・中村純子（2002）. 預かり保育に関する研究——利用の理由と利用後の子どもの様子—— 大阪樟蔭女子大学学芸学部論集, **39**, 177-184.
- 園田菜摘・無藤 隆（2001）. 幼稚園「預かり保育」に関する研究——保育の質と子どもの様子—— 乳幼児教育学研究, **10**, 33-40.
- 園田菜摘・無藤 隆（2005）. 養育者の子育て状況と預かり保育への意識 山形大学紀要（人文科学）, **4**, 203-213.

立石陽子・安藤智子・岩藤裕美・丹羽さかの・金丸智美・荒牧美佐子・掘越紀香・砂上史子・無藤 隆 (2004). 幼稚園における子育て支援の実態調査 お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要, 2, 27-37.

山本理絵・神田直子 (1999). 幼稚園における「預かり保育」・子育て支援に関する研究 (その2) ——「預かり保育」の内容・方法を中心に—— 児童教育学科論集, 33, 31-42.

吉田時子・前田マスヨ (監) (1994). 小児看護学 金原出版.

付録 A (研究ノート)

研究ノート 1 保育者への預かり保育に関するインタビュー調査

目的 研究ノート1の目的は、(1) A園の保育者が預かり保育時に行っている配慮を明らかにすること、(2) 参加観察時に子どもの遊びを観察する際に必要な視点を得心することであった。

方法 調査対象は、A園主任保育者1名(職歴27年)であった。第二著者が、園主任保育者に対して、(1) 環境構成について、(2) 預かり保育を行って良かったこと、(3) 預かり保育について不安はあるのか、(4) 特に気をつけていること、(5) 通常保育と預かり保育の子どもの様子の違い、という5点について個別インタビューを行った(時間は15分程度)。

結果と考察 上記の(1)から(5)の順で、結果と考察を述べる。

(1) 環境構成について 預かり保育時の環境構成について質問を行った結果、「特になく、通常のまま行っている」という回答を得た。したがって、子どもは環境の変化に捉われずに預かり保育の時間を過ごすことができると考えられる。

(2) 預かり保育を行って良かったこと 預かり保育の利点について質問を行った結果、「縦割りになるので、上の子どもと下の子どもが仲良くできる。3歳児などが、お姉ちゃん、お兄ちゃん遊ぼう、と一緒に遊ぶことができる。預かりの子どもの中だけで、秘密を作ったりすることもある。そして、預かり保育は近くに公園など遊び場がない子どもにとっては良い。パートの保護者も増えてきていて、ちょっと病院に行くなどの理由で預けることができる」という回答を得た。先行研究(e.g., 丹羽他, 2006; 立石他, 2004)と同様に、保護者と子どもの両方にとっての利点があるだけだけでなく、縦割り保育になることで子ども同士の関わりも広がるようである。

(3) 預かり保育に対して不安はあるのか 預かり保育時の不安については、「暑いときは体調を崩すかもしれないので、体調管理に気を配っている。子どもたちが遊ぶ中で、座っていたり、大人しいなど、普段とは様子が違う子どもがいかなど気にかけている。お昼寝をさせることもある」という回答であった。保育者は、預かり保育を実施することそのものについてではなく、通常保育時の子どもの様子との違いや体調管理について気を配っているようであった。

(4) 特に気をつけていること 保育者の子どもへの配慮をさらに詳細に検討するために、「特に気をつけていること」について質問を行った。その結果、「体調管理。上の子が、下の子をいじめていないか。朝、お母さんと別れるときに預かりと言われ、預かりの時間に急に寂しくなる子どもがいたりするため、そのような子どもには声掛けをするようにしている、というように子どもの様子を見て対応している」という回答だった。したがって、先程と同様に、保育者は、子ども同士の関わりや、子どもの様子の変化に気を配っていた。

(5) **通常保育と預かり保育の子どもの様子の違いについて** 通常保育時と預かり保育時の子どもの様子の違いについては、「通常保育に比べ、子どもたちはのびのびしている。預かりの時間にお手伝いを頼むと、遊びたいので「えー」と言って嫌がるが、手伝ってくれる。規制がないので、好きなことができ、自由に遊べるのでのびのびとした姿がみられる」という回答であった。したがって、子どもにとっては、通常保育よりも預かり保育において自由にのびのびと遊んでいるのかもしれない。

以上のことから、(1) 保育者は子どもの体調や通常保育時の子どもの様子との違いに配慮していること、(2) 通常保育と変わらぬ環境の中で子どもたちはのびのびと自由な活動を行っていること、(3) 預かり保育時は、通常保育時に比べると、異年齢での関わりが増加している可能性があることが示唆されたといえよう。

研究ノート2 預かり保育参加回数が多い子どもへのインタビュー

目的 研究ノート2の目的は、子ども自身が預かり保育に対してどう感じているのかをインタビューを通して明らかにすることであった。

方法 調査対象は、2008年4月から6月末の間に預かり保育を20回以上経験した子ども4人であった(4歳児女児2名、5歳児女児2名；この4人は、1-4の参加人数が多い子どもである)。第二著者が、参加観察中に、(1) 幼稚園で遊ぶのと、家で遊ぶのはどちらが好きか、(2) それはなぜか、(3) 預かり保育で何が一番楽しいか、(4) 嫌なことはあるか、という4点について、個別インタビューを実施した。なお、遊びの途中にインタビューを行ったため、全ての質問を聞くことができず、質問によっては4歳児女児1名を除いた3人の回答結果の場合もある。

結果と考察 上記の(1)から(4)の順で、結果と考察を述べる。

(1) **幼稚園で遊ぶのと、家で遊ぶのはどちらが好きか** 「幼稚園で遊ぶのと、家で遊ぶのはどちらが好き？」という質問を行ったところ、「両方好き」と答えたのは4歳児2名、「幼稚園」と答えたのが5歳児1名、「家」と答えたのが5歳児1名であった。したがって、もしかしたら、5歳児になると、遊ぶ場所の好みが出現しはじめるのかもしれない。

(2) **それはなぜか** 「それはなぜか」という質問に対しては、「両方好き」と答えた4歳児2名は、「楽しいから。しかし、家の方がおもちゃが沢山ある」、「おもちゃが沢山あるから」、という答えであった。また、「幼稚園」と答えた5歳児は返答がなかった。「家」と答えた5歳児は、「家の方が広いから。絵本が100冊くらいあるから」という答えであった。

(3) **預かりの時間で何が一番楽しいか** 「預かりの時間で何が一番楽しいか」という質問を行ったところ、「カップの中にティッシュと石鹸を混ぜて泡を作って遊ぶこと、外で遊ぶこと」(4歳児)、「ビデオを見ること」(5歳児)、「ぼっぼちゃん(人形)で遊ぶこと」(5歳児)と様々な返答があった。おやつなどの決められた内容ではなかったため、規制がなく自由に遊ぶことができるということが、預かり保育の楽しさにとって重要なかもしれない。

(4) **嫌なことはあるか** 子どもが預かり保育に対して負担や不満を持っているのかということを探るために「嫌なことはあるか」という質問を行った。その結果、3人全員が「ない」と答えた。子どもはすぐに答えており、特に預かり保育に不満を持っている様子はないようであった。

付録 B (預かり保育中における子どもの遊びの生起頻度)

Table A 夏休み前の預かり保育の子どもの遊びにおける年齢差 (生起頻度)

分類カテゴリー	5歳児のみ	4歳児のみ	3歳児のみ	異年齢での関わり	合計
1. ぼんやりしている	1	0	0	0	1
2. 傍観的行動	7	9	4	1	21
3. 一人遊び	60	68	5	0	133
4. 平行遊び	9	17	1	4	31
5. 連合遊び	92	27	2	41	162
6. 協同遊び	19	8	0	10	37
7. ビデオ視聴	6	5	0	11	22
8. その他	0	4	0	0	4
合計	194	138	12	67	411

Table B 夏休み前の預かり保育の子どもの遊びにおける性差 (生起頻度)

分類カテゴリー	男児のみ	女児のみ	男女混合	合計
1. ぼんやりしている	0	1	0	1
2. 傍観的行動	5	16	0	21
3. 一人遊び	30	103	0	133
4. 平行遊び	3	21	7	31
5. 連合遊び	11	102	48	161
6. 協同遊び	2	21	14	37
7. ビデオ視聴	0	10	12	22
8. その他	0	4	0	4
合計	51	278	81	278

Table C 夏休み前の預かり保育における子どもの遊び (年齢×性別, 生起頻度)

分類カテゴリー	5歳児			4歳児			3歳児	異年齢		合計
	男児のみ	女児のみ	男女混合	男児のみ	女児のみ	男女混合	女児のみ	女児のみ	男女混合	
1. ぼんやりしている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 傍観的行動	3	1	0	0	6	0	2	1	0	13
3. 一人遊び	5	15	0	9	21	0	1	0	0	51
4. 平行遊び	1	3	0	1	7	2	1	0	0	15
5. 連合遊び	6	23	12	2	8	6	2	13	1	73
6. 協同遊び	0	3	2	1	3	4	0	5	0	18
7. ビデオ視聴	0	1	2	0	0	3	0	3	4	13
8. その他	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
合計	15	46	16	13	47	15	6	22	5	185

Table D 夏休み前の預かり保育における参加人数が多い日と少ない日の4歳児と5歳児の遊び (生起頻度)¹⁾

分類カテゴリー	5歳児のみ		4歳児のみ		異年齢での関わり	
	多い日	少ない日	多い日	少ない日	多い日	少ない日
1. ぼんやりしている	0	0	0	0	0	0
2. 傍観的行動	1	1	4	1	1	0
3. 一人遊び	3	2	7	3	0	0
4. 平行遊び	2	1	6	0	0	0
5. 連合遊び	8	8	4	0	2	4
6. 協同遊び	2	0	2	1	0	1
7. ビデオ視聴	0	0	1	0	1	1
8. その他	0	0	2	0	0	0
合計	16	12	26	5	4	6

¹⁾ 3歳児については、参加人数が少ない日は0名、多い日は1名であった。参加人数が多い日においては、5歳児のお姉ちゃんが3歳児女児の面倒を見てくれていたため、3歳児の遊びの生起頻度 = 異年齢での関わりの生起頻度である。

Table E 夏休み前の預かり保育における前半と後半における4歳児と5歳児の遊び（生起頻度）¹⁾

分類カテゴリー	5歳児のみ		4歳児のみ		異年齢での関わり		合計
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
1. ぼんやりしている	1	0	0	0	0	0	1
2. 傍観的行動	4	0	5	2	0	1	12
3. 一人遊び	17	6	17	9	1	0	50
4. 平行遊び	6	1	7	3	0	1	18
5. 連合遊び	26	10	2	5	5	7	55
6. 協同遊び	4	5	2	1	2	1	15
7. ビデオ視聴	0	2	0	1	0	3	6
8. その他	0	0	2	0	0	0	2
合計	58	24	35	21	8	13	159

¹⁾ Table Dと同様、3歳児は木曜日に1名のみ参加であった。そのため、異年齢での関わりの中に、3歳児の遊びの生起頻度は含まれる。

Table F 夏休み前の預かり保育における参加回数が多い子どもと少ない子どもの遊びの比較（生起頻度）¹⁾

分類カテゴリー	参加回数が多い子ども				参加回数が少ない子ども			
	5歳		4歳		5歳		4歳	
	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児
4～6月の参加回数	46	42	36	29	2	3	3	3
観察期間中の参加回数	12	10	10	9	1	1	1	1
1. ぼんやりしている	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 傍観的行動	2	0	6	1	0	0	0	3
3. 一人遊び	10	11	32	7	0	1	0	1
4. 平行遊び	3	3	12	2	0	0	4	0
5. 連合遊び	33	51	15	25	5	2	1	1
6. 協同遊び	4	14	5	4	1	0	0	1
7. ビデオ視聴	6	0	7	6	0	0	0	0
8. その他	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	58	79	77	45	6	3	5	8

¹⁾ 異年齢との関わりは、A児19回（平均1.6回）、B児13回（平均1.3回）、C児22回（平均2.2回）、D児24回（平均2.7回）、H児1回であった。

Table G 夏休み中の預かり保育の子どもたちの遊びにおける年齢差（生起頻度）

分類カテゴリー	3歳児のみ	4歳児のみ	5歳児のみ	異年齢での関わり	合計
1. ぼんやりしている	1	0	0	0	1
2. 傍観的行動	2	8	0	0	10
3. 一人遊び	12	16	13	0	41
4. 平行遊び	1	7	0	1	9
5. 連合遊び	9	11	11	17	48
6. 協同遊び	1	2	0	3	6
7. ビデオ視聴	1	0	0	0	1
合計	27	44	24	21	116